

追手門学院大学スポーツ研究センター

 NO.8
 2019.3

スポーツ研究センターニューズレター

第1回 地域スポーツ人材育成コンソーシアム 開催

地域スポーツ人材育成コンソーシアムでは、スポーツ人材の育成に大学教育が果たすべき役割、各企業・団体等が求める人材の資質や能力、必要な知識・スキルなどについて議論を深めカリキュラムに反映するとともに、研究・教育・社会貢献という3つの観点からの取組みを積極的に進めてまいります。

第1回コンソーシアムを2018年12月14日(金)に本学にて開催しました。

本コンソーシアムが目指す活動について、本学から2点説明を行いました。

1点目に、自治体・企業・NPO法人、大学が研究・教育・社会貢献をベースに、それぞれの立場から意見を出し合い、知恵を集めながら人材を作り上げていくというプラットフォームの確立をコンソーシアムが担うこと、また、2点目に、これからのスポーツ産業・スポーツ文化・スポーツ行政等において、どのような人材が求められているかについて意見を交換し、今後のコンソーシアムのカリキュラムとして反映させていくことです。

続いて、参加者の方々と、「2020年東京オリンピックに向けてのスポーツの動向、オリンピック終了後のスポーツ文化について」や、「eスポーツの取り上げ方や、今後の動向について」など予定時刻を超える活発な意見交換を展開し、無事盛会にて終了しました。

今後、本コンソーシアムに参加いただけるすべての業種・分野の方が、研究・教育・社会貢献の人材育成の課題について考え、活かすような関係を作っていけるように取り組んでまいります。

【出席者】

茨木市、茨木市スポーツ少年団、茨木市スポーツ推進委員協議会、茨木市立西河原市民プール、江崎グリコ株式会社、NPO法人茨木市体育協会、大阪エヴェッサ/ヒューマンプランニング株式会社、大塚製薬株式会社、株式会社ガンバ大阪、株式会社ジェイコムウエスト、シンコースポーツ株式会社、株式会社デサント、西鉄旅行株式会社、パナソニック株式会社、毎日新聞社、AGIスポーツマネジメント株式会社、大阪府茨木保健所

(地域スポーツ人材育成コンソーシアム会長：辰本 頼弘)



2018年度セミナー

第2回

「あなたもロコモ??さあロコモチェック!ロコトレ!」

講師：高島 孝之 氏（追手門学院大学スポーツ研究センター研究員・医療法人高島整形外科 医院長）

日時：11月25日(日) 10：30～12：00 会場：茨木市立生涯学習センターきらめき

本学スポーツセンター研究員の高島孝之先生（医療法人高島整形外科 医院長）による、ロコモチェック、ロコトレに関する講演会を開催しました。市民の方37名（中高齢者）が参加し、高島先生よりロコモとは何かという基本的な内容から、体幹や下肢筋力の重要性について講義を受けました。参加者のみなさまは、先生の講義を熱心に聞かれていました。

講義の次は、高島整形外科 アスレチックトレーナー 新井東眞先生、兵藤琢哉先生、吉田英二先生を始め、医院のスタッフの方々の指導のもとロコモ度テストを実施しました。参加者のみなさまは、自身のロコモ度の現状を認識され、今後役に立つ筋力低下予防に関するトレーニングを先生から指導をしてもらいました。

最後に高島先生は、各人各様の筋力を踏まえ、自分に合った負荷を探り、毎日続ける継続性が大事であることを皆さんにお伝えされセミナーは終了しました。

改めて、加齢と共に筋力低下はやむを得ない現象ではありますが、その低下を緩やかに、いくつになっても自身の脚で起立・歩行ができる大事さを学んだセミナーでした。



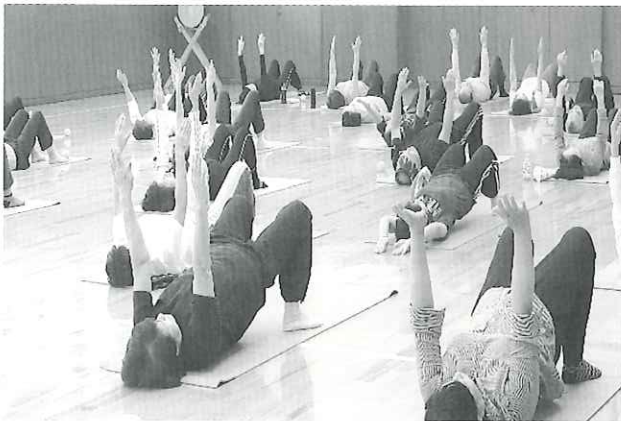
(報告：辰本 頼弘)



将軍山祭にてピラティス教室を開催

1. 日 時：2018年10月27日(土) 11:00~12:00 (10:45~受付)
2. 場 所：追手門学院大学 第2体育館
3. 対 象 者：一般市民・学生・教職員 (どなたでも)
4. 参加者数：30名 (定員25名)
5. 講 師：巽 樹理 (スポーツ研究センター副センター長・社会学部講師)
中牧佳南 (スポーツ研究センター客員研究員)
6. 内 容：姿勢改善、骨盤体操、柔軟、ストレッチ、呼吸法(胸式呼吸)、
初級ピラティス (ハンドレッド、クリスクロス) など
7. 所 見：定員25名のところ、地域の中高年の方々にたくさんお越しいただき、当日参加も含め30名と満員御礼となった。長期継続して運動ができるよう、マットピラティスを選択し、自重トレーニングを中心にエクササイズや運動プログラムを提供した。参加者は、胸式呼吸で行うピラティスに苦戦しながらも、しっかり体幹に刺激が入るよう回数や負荷を各自で調整しながら前向きに取り組んでいたのが印象的であった。アンケートでは、満足度が高かったため、さらに大学と地域の良好な関係を築き上げるためにも第2弾を計画したいと感じた。【アンケート：とても満足・満足、合わせて100%】
最後に、今回の企画・運営に対してご協力いただきました部署・関係者、参加者の皆様に心より御礼申し上げます。ありがとうございました。

(報告者：巽 樹理)



2018シニアバスケットボール大会の報告

1989年4月から大阪女性バスケットボール連盟主催「尾崎杯」として開催されていた大会が、今年度より『大阪府社会人バスケットボール選手権大会・後期リーグ戦』と名称が変更し、リニューアルされました。この大会を地域連携のイベントとして「尾崎杯」に引き継いで2018年12月2日(日)に本学体育館で開催されました。

本年度は18チームの参加で9試合が行われ、今回も幅広い年齢層で下は24歳から上は68歳の方々が参加されました。

(報告：千葉 英史)

2018年12月2日 (日)		会場		追手門大学				
		Aコート		Bコート				
①	ブロック	女子-オーバーエイジ40・50 U		ブロック	女子-チャレンジ R			
	チームA	6 - 6	チームB	チームA	27 - 17	チームB		
	Happiness	8 - 7	32	WEED	UNITE	16 - 11	61	Cuty's
		8 - 16				17 - 15		
		7 - 0				11 - 18		
2 - 3		-						
②	ブロック	女子-チャレンジ R		ブロック	女子-チャレンジ O			
	チームA	17 - 10	チームB	チームA	13 - 23	チームB		
	Rude	7 - 13	47	rare AIR	HOT BALLER'S	11 - 22	82	フェアリーズ
		9 - 12				17 - 23		
		9 - 12				8 - 14		
-		-						
③	ブロック	エンジョイ W		ブロック	エンジョイ X			
	チームA	19 - 6	チームB	チームA	-	チームB		
	FLIPPERS	21 - 9	27	浜寺 PINEGROVE	Retires	-	20	JOYO CLUB
		22 - 4				-		
		18 - 8				-		
-		-						
④	ブロック	エンジョイ Y		ブロック	女子-オーバーエイジ40・50 T			
	チームA	6 - 7	チームB	チームA	15 - 11	チームB		
	Green Wolf	15 - 4	20	オンマーズ	亜仁麻留	23 - 6	23	オーキッド
		10 - 5				7 - 0		
		12 - 7				21 - 6		
-		-						
⑤	ブロック	女子-オーバーエイジ40・50 T		ブロック	女子-オーバーエイジ40・50 U			
	チームA	19 - 12	チームB	チームA	16 - 4	チームB		
	ARASHI	12 - 4	34	はんなあず	大黒天	8 - 6	19	るーちゅ
		13 - 6				4 - 9		
		23 - 12				20 - 0		
-		-						



第2回 ボッチャ交流大会の報告

茨木市主催の第2回ボッチャ交流大会が開催されました。日時と場所などは次の通りです。

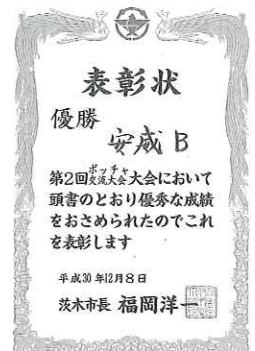
日 程：2018年12月8日(土) 9：15～12：30 (試合は9：30から)

場 所：茨木市立市民体育館 参加人数：約60名 チーム数：20チーム

主 催：茨木市 市民文化部スポーツ推進課

共 催：追手門学院大学・茨木市生涯スポーツディレクター協議会、
茨木市老人クラブ連合会・茨木市スポーツ推進委員協議会

地域スポーツクラブや各地区の自治会、サークル、茨木支援学校などから、合計20チーム(1チーム3名)が大会に参加して熱戦を繰り広げました。本学で活動を行っているボッチャ健康サークルから2チームが出場し、見事、安威Bチームが優勝しました(安威Aはブロックで3位)。決勝戦は、昨年の優勝チーム、茨木公民館Aチームとの息詰まる熱戦の末、スコア2-1で勝利!感動の勝利でした。サークルでの練習成果を存分に発揮され、皆さん、すばらしい活躍でした。今回は茨木支援学校から未来のボッチャ選手(?)も参加し、ゲームを通して楽しく交流され、とても充実した大会となりました。(報告：松井 健)



第9回追手門学院大学杯 茨木市スポーツ少年団軟式野球大会

開催日程：2018年12月8日(土)、9日(日)

開催場所：追手門学院大学 第2グラウンド

本大会は追手門学院大学と茨木市スポーツ少年団との共催のもと開催する、地域スポーツ振興事業です。今年度で第9回を迎える歴史のある大会として、茨木市内の野球少年に根付いています。

大会は茨木市内3ブロックの予選を勝ち抜いた6チームによる、トーナメントで争われました。当日は天候にも恵まれ、厳しい寒さの中でしたが少年野球らしい元気な声がグラウンドに響き渡り、ご父兄の皆様の熱い応援のもと熱戦が繰り広げられました。また、前回大会に引き続き、開会式に川原理事長・学長が出席され、開会式でのご挨拶と第1試合には始球式を行われました。

また、2日目の大会終了後には本学硬式野球部が少年野球大会を開催し、小学5年生、6年生の約80名が参加しました。部員たちは普段少年野球を指導する機会がほとんどないため、最初は戸惑いながらの指導でしたが、徐々に子どもたちと打ち解け、基本的な動作などを熱心に指導する姿が見られました。大学生による地域貢献の一環として、今後も継続すべき活動であると強く感じました。

大会の結果は以下の通りです。

優勝 玉櫛スラッガーJSC

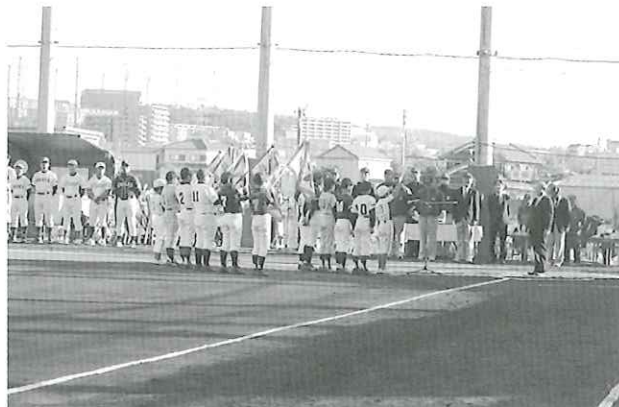
準優勝 玉島アニマルズ・プレジャーズJSC

第3位 東太田イーグルスJSC

第4位 沢良宜シャークスJSC



開会式での入場行進



開会式での川原学長ご挨拶



試合の様子



硬式野球部による少年野球教室



飛び出せ世界へ！

がんばる追大アスリート
第4回

陸上競技部

立野 大空さん (経営学部 経営学科 3回生)

追手門学院大学陸上競技部に所属。

2018年5月に開催された、第95回関西学生陸上競技対校選手権大会(関西インカレ)男子2部100メートルで準優勝。

また、2018年6月に行われた、第71回西日本学生陸上対校選手権大会(西日本インカレ)では、男子100メートルで10.35秒を記録し、優勝という好成績を収められました。

今後の活躍が期待される立野大空さんにお話を伺いました。

■陸上競技をはじめたきっかけを教えてください。■

小さい頃から走ることが好きで、周りよりも走るのが速く、学校のリレーでは、みんなに頼りにされ、応援され、いつもアンカーを任されていました。周りからの期待や、走っている時の高揚感が気持ち良く、その感覚が好きだったことがきっかけです。

本格的に陸上競技を始めたのは、高校生の頃からです。

■追手門学院大学を進学先に選んだ理由は何ですか？■

大学では練習のメニューを組み立てるところから、トレーニングまで全て自分自身で管理し、自分の力だけで、どこまでできるのか挑戦してみたいという思いがあり、陸上部の指導者がいないという大学を探し、追手門学院を選びました。

■1番印象に残っていることは何ですか？■

2回生の時、レース中に怪我をしてしまい、そのシーズンに残っていた試合は全て出場できなくなりました。

すごく悔しい思いをしました。ものすごく負けず嫌いなので、次は絶対良い結果を出す！このままでは終われないという気持ちでリハビリに励みました。その結果、次のシーズンは、関西インカレで自己ベストを更新し準優勝することができ、さらに西日本インカレで優勝することができたことが1番印象に残っています。

つらい時期を乗り越え、復活し良い結果を出すことができ、すごく嬉しかったです。



(西日本インカレ男子100m優勝の表彰式)



(関西インカレ決勝前ウォーミングアップ)

■陸上競技のおもしろさはどんな時に感じますか？■

陸上競技は1発勝負で、レース展開により、かなりタイムが左右される競技です。ウエイトトレーニングなどでは、ただがむしゃらに筋肉トレーニングをするだけではなく、自分自身の身体に合ったトレーニングをすることが大事です。その為に、シーズン毎に自分の身体を理解することから始めるのですが、その中でも自分の身体全体のバランスを理解することが特に難しく、常に自分との闘いだと思ひ、毎回のトレーニングに励んでいます。そこで、自分の身体に合ったトレーニングを行い、身体を仕上げ、走るのに適したコンディションを作り上げ、うまく型にハマることができると、結果として良いタイムに繋がってくるので、陸上競技は、ホント奥深く面白いです。また、自分の力でこれからどこまでいけるかが、とても楽しみなので、日々の練習も楽しく取り組んでいます。

■今後の抱負■

全てのインカレで、表彰台に乗ることです。そして、東京オリンピックで日本代表に選ばれるように、10秒前半をコンスタントに出せるようにすること、来シーズンは日本選手権の標準記録を切り、日本選手権に出場することです。

また、指導者がいないことは、自分に合っていると思うので、卒業後どこかに所属したとしても、自分の力でやっていけるような選手になりたいです。他の、トップアスリートと走るとは、自分を強くするきっかけにもなると思うので、そんな機会も作れたらいいなと考えています。

自分の力でどこまでいけるのかやってみたい、という強い意志と向上心で、苦しい時期を乗り越え、強くなるために試行錯誤を重ね、また、何より自分自身が強くなることをとても楽しみながら競技に取り組んでおられる様子が、お話を伺い知ることが出来ました。

今後のさらなる活躍を応援しています。

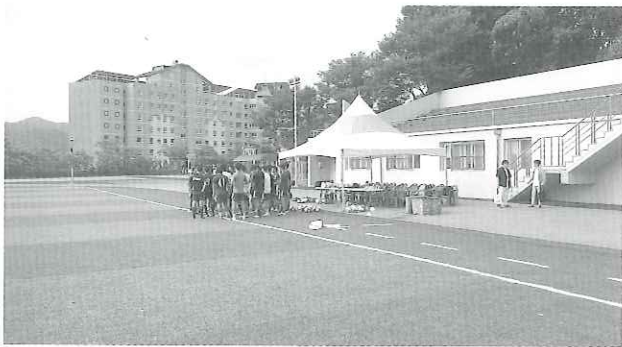
(2019年1月17日に実施。聞き手：スポーツ研究センター客員研究員 中牧 佳南)

学外イベント報告 その③

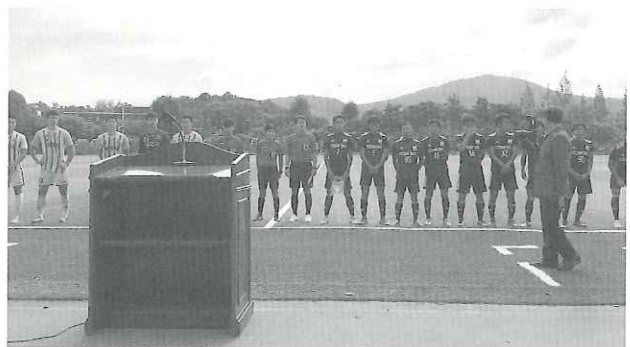
男子サッカー部 韓国・光州大学へ遠征



男子サッカー部30名は8月24日～31日に本学協定校である韓国・光州大学に遠征した。同大学は全国大学選手権にてベスト4に入る強豪校である。プロサッカー選手も多数輩出している。校内の寮に宿泊しながら、同大学、朝鮮理工大、朝鮮大学と練習試合を行い、4勝1敗2分の結果であった。オフの日には光州民主化運動記念館に行き、光州の歴史を学んだ。また同大学部員達との交流を深めるなど、本学の進める国際交流をスポーツを通じて行った実りある遠征であった。来年度は本学が受け容れることとなる。
(報告：上田 滋夢)



(光州大学サッカー部専用グラウンド)



(開会の辞を待つ両大学の学生達)



(光州大学金総長によるウエルカムスピーチ)



(光州大学 vs 本学の様子)

研究員コラム 「アスリートファーストからカスタマーファーストに！」



ガンバ大阪を経、大学でスポーツを研究する機会に恵まれスポーツの面白さを構成する特性に5つあること判りました。

1つに**無形性**（試合には形が無くつかむ事できない）2つに**同時性**（生産と消費が同時に進行）3つに**消滅性**（在庫ができなく交換もできない）4つに**異質性**（毎回提供する商品が異なる）5つに**多様性**（喜びだけでなく苦痛も提供）です。

この特性を学生たちに好きなものを選択させると、アスリートたちは異質性を選び、観戦者は無形性を選ぶ傾向にあります。しかし私が重要視しているのは同時性です。選手は試合という商品を生産し、観客は観戦と言う消費を同時に行っています。パナソニックに長年勤務したこの関係を重要視しています。それは消費をする観客はカスタマーとして位置づけ、顧客の存在を重要視するわけです。

スポーツが2010年国家戦略の中に組み込まれ、スポーツは「国民に無くてはならない文化」として位置づけられました。今後スポーツ産業が発展成長する為には「顧客創造」の観点から「アスリートファースト」でなく「カスタマーファースト」に変えていかなければいけないと思う昨今です。

皆さんはどの様に考えられますか！

(経営学部 教授 金森喜久男)

おうてもんジュニアキャンパス2019冬

■日 時：2019年2月16日(土) 午前の部：10：00～12：00 午後の部：13：15～15：15

■会 場：追手門学院大学（体育館・グラウンド）

■参加教室：10教室

- 【剣道部】 剣道教室
- 【女子サッカー部】 サッカー教室（低学年向け）
- 【男子サッカー部】 サッカー教室
- 【少林寺拳法部】 武道体験教室
- 【児童研究会】 工作教室
- 【男子ラグビー部】 体力づくり教室
- 【松井健教授】 ポッチャ体験教室
- 【硬式野球部】 野球教室
- 【男子ラグビー部】 ラグビー教室
- 【女子ラクロス部】 ラクロス教室

■参加人数：午前128名、午後91名 合計219名

■主 催：追手門学院大学

■後 援：茨木市、茨木市教育委員会

■協 力：追手門学院大学学友会追風



「おうてもんジュニアキャンパス」は、学生が日頃のクラブ・サークル活動の魅力地域に積極的発信し、小学生を対象にアートやスポーツの楽しさを伝えることを趣旨として2012年度から実施しています。小学生に、体験学習の機会を提供するとともに、学生にとっては、教えることの楽しさ・難しさを実感すること、各教室の企画・運営体験をする機会になっています。

当日の各教室の様子…【剣道教室】型の練習、竹刀の持ち方、瞑想など、普段部活で実施していることをベースに参加者へ指導していました。【サッカー教室】ドリブル、シュートの練習の後、チームに分かれて試合をしました。【工作教室】オリジナルスタンプ・空気砲・ストローおぼけを作って、最後には外でシャボン玉をしました。【ポッチャ教室】ボールを投げる力加減に苦戦しながらも、ゲームでは盛り上がっていました。【体力づくり教室】手押し相撲やバランスボールを使った体操をして汗を流していました。【ラクロス教室】子供用のクロスを使用し、ボールをキャッチする練習からスタートし、最後にはパスからシュートまでできていました。参加した教室担当の学生たちは、子どもたちの予想外の動きに戸惑い、課題も見つかったが、たくさん子どもたちとふれあい楽しい時間を過ごすことができました。参加して良かったとの声が多く、次回開催に向けての意欲も見受けられました。また、保護者より、「すばらしい企画をありがとう。継続を希望します。」〔普段できないスポーツを体験できてとても良い経験になった。〕〔大学生と楽しく過ごすことができ子どもが満足していた。〕等のお声をたくさんいただきました。午前・午後ともに、たくさん子どもたちの笑顔に包まれ、大盛況のうちに終了しました。

このイベントは、毎年、夏と冬に開催しています。本年度も「いばらき・大学連携事業補助金」の交付を受けて実施します。今回の体験を通じて、将来を考えるきっかけになればうれしく思います。（報告：研究・社会連携課 谷藤 由紀）

センターからのお知らせ

●ポッチャ健康サークル●

・日時：月2回（第2・第4水曜）8：00～9：00 ・会場：追手門学院大学 体育館1階
地域の皆さんと教職員・学生の皆さんが、体力レベルに関係なく、一緒にスポーツを楽しめる機会です。2020年東京パラリンピックの正式種目です。一度体験してみませんか。ぜひ、ご参加ください。

●2019年度セミナーについて●

お呼びしたい講師の先生、ご希望の内容がございましたら、センターまでご一報ください。

●各スポーツ系クラブの地域交流を積極的にサポート●

子ども、高齢者、その他の年齢層を対象とした教室や大会などを企画・運営してみたいクラブは、センターまでご相談ください。

●スポーツボランティア募集●

センターで実施している、様々なスポーツ関連事業をサポートしていただけるボランティア（どなたでも）を募集しています。地域連携イベント（セミナー等）、サークル活動、研究活動などにぜひ、皆様のお力添えをいただければ幸いです。

追手門学院大学 スポーツ研究センターニュースレター No.8

■編集・発行 2019年2月28日

■編集代表者 辰本 頼弘

■発行所 追手門学院大学 スポーツ研究センター

〒567-8502 茨木市西安威2-1-15

TEL/072(641)9690 FAX/072(641)9695（事務局 谷藤 由紀）

E-mail sports@otemon.ac.jp

https://www.otemon.ac.jp/research/labo/csr.html